

II 学校支援推進事業 《地域拠点》=宮城県松山高等学校

宮城県松山高等学校は、昭和7年(1932)設立の志田郡松山町立松山女子専修学校が前身となります。校舎は仙台藩の重臣、茂庭家の居城、松山城跡に建てられています。現在は普通科と家政科(保育・調理・被服コース)が設けられ、「意欲・創造・規律・連帯」を校訓に学習活動が行われています。

授業に『坤輿万国全図』や絵本を活用——

松山高等学校では1600年代に中国で作られた世界地図『坤輿万国全図』(国指定重要文化財)レプリカなどを文化祭で展示した(「世界図で遊ぼう」)ほか、『坤輿万国全図』を活用した社会科の授業を行いました。授業は、社会科教諭と学校司書によるチームティーチング形式で、生徒が自作した副教材「大崎市松山地区のガイドマップ」や『世界図で遊ぼう』年表も用いられました。

また、家政科(保育コース)の生徒を対象に宮城学院女子大学の足立智昭教授を迎え、「絵本で学ぶ幼児期の人間関係」と題しての特別授業を行い、絵本を通じたソーシャルスキル(良好な人間関係を形成、維持する知識と技能)の身につけ方などを学びました。

特別授業で紹介された絵本は『ぼく、ひとりいでいけるよ』(リリアン・ムーア/著 フォン・メング/絵 神宮輝夫/訳 偕成社 1977年)、『おさるはおさる』(いとうひろし/作 絵 講談社 1991年)の2冊です。

この特別授業は、叡智の杜づくりを担う図書館や地域施設の職員を対象とした「チューター研修会」として、高等学校の図書館司書、保育士等の関係者も参加しました。

◆ 担当者の声

『坤輿万国全図』を文化祭で展示発表するために、図書委員が毎日こつこつと作成した年表や図表、松山地域のガイドマップなどは上手に出来上がり授業でも大活躍しました。また、保育の特別授業では、絵本が持つ感性とメッセージを、生徒と共に学ぶことができました。(松山高校 学校図書館司書/橋本 明美)

◆ チューター研修/参加者の声

絵本を通して学べるとしたら、高校生にとっても絵本の持つ意義は大きく、学校司書として、生きるヒントにつながる良質の本を提供していくことが大切だと考えさせられました。教科での学習と連動できる絵本についても様々な情報を得ていくことが必要だと感じました。(田尻高校 学校図書館司書/久光 牧子)



「世界図で遊ぼう」



「坤輿万国全図」の授業



足立智昭教授の特別授業

III 地域サービス推進事業 《地域拠点》=登米地域広域連携

登米市は、平成17年4月1日に旧9町が合併して誕生しました。登米広域を対象地域に設定し、市町村図書館、公民館等の地域の社会教育施設、学校、関係機関等との連携による「叡智の杜展示会&セミナー」などを連続開催し、多くの県民の皆様にも「みやぎの叡智」に間近に接していただきました。

地域の視点で“みやぎの叡智”を再発見——

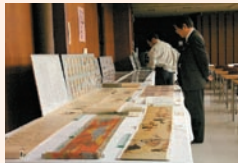
本プロジェクトでは、合併により拡大した地域において学校、行政、公民館が連携して、地域の歴史、「みやぎの叡智」の再発見に多彩な取り組みを試みました。

11月には、登米市内の中田生涯学習センター、石越公民館、米山公民館、登米公民館において、本館が所蔵する国・県指定有形文化財のレプリカ展示会を行いました。また、宮城県登米合同庁舎においては「古典への誘い in 登米」として、「西行法師のみちの旅」をテーマに、レプリカ展示会(12月5日～13日)と宮城県図書館職員によるセミナー(12月13日)を開催しました。登米市東和総合支所などでは宮城県図書館長出前講座を行いました。

このほか、上沼、佐沼、登米、米山の各県立高等学校においては、古典や浮世絵レプリカの展示会を行い、多くの地域の方々にご来場いただくことができました。



西行法師についての講座



「古典への誘い in 登米」



米山高校での準備会議

◆ 参加者の声

「古典への誘い in 登米」では、江戸時代の魚類図譜『魚虫譜』や、鳥類図譜『禽譜』のレプリカを鑑賞しました。一枚一枚手描きされた図譜と、現代の写真とを比べてみたいと思い、レプリカの横に図鑑を並べてみたところ、写真と比べて全く遜色ないほど精巧に、そして美しく描かれているのがよくわかり、圧倒されました。(登米市/ H.E.さん)

図書館の姿が地域の人々の眼に見えるように——「叡智の杜づくりプロジェクト」に寄せて

「これからの図書館の在り方検討協力者会議」

主査 葉袋 秀樹さん



「これからの図書館像」がめざす“地域に役立つ図書館サービス”

「これからの図書館像～地域を支える情報拠点を目指して～(報告)」(文部科学省 2006年3月)が発表されて2年が経ちましたが、この間大きな反響がありました。この報告の最大の特徴は、図書館の目的として、「住民の読書を支援する」ことに加えて、「地域の課題解決を支援する」ことを挙げ、地域の役に立つ図書館サービスをめざしていることです。

そのほか、①行政機関や地域住民を含む広範な人々に図書館の改革を呼びかけている、②町立図書館を含む実際の図書館活動の事例をもとに図書館像を組み立てている、③したがって、町村部を含む図書館で実現可能な像を提案している、④図書館サービスだけでなく図書館経営についても提案している、⑤地域の行政機関や各種団体との連携を重視している、などの特徴があります。

県立図書館が中心となった改革の取り組み

各地の図書館では、県立図書館を中心にさまざまな改革が取り組まれています。その結果、改革に取り組んだ自治体では、公共図書館は図書館を取り巻く社会のさまざまな活動とより密接に結びついていることができるようになり、図書館の姿が地域の人々の眼にはっきりと見えるようになりました。今後、さらに「これからの図書館像」の実現に向けて努力することが期待されます。

宮城県図書館「叡智の杜づくりプロジェクト」が牽引する可能性

宮城県図書館の「叡智の杜づくりプロジェクト」は、このような観点からの図書館サービス改革の取り組みとして、この間注目されてきました。今回は市町村、学校、図書館、住民、ボランティアなどからなる地域との連携をさらに進めて、「地域に役立つ図書館づくり」と“次世代を担う人づくり”をめざしており、活動の内容も、学校で用いる副読本の刊行など、より豊かなものとなっています。新たな成果が期待されます。

【プロフィール】

みない・ひでき/筑波大学大学院図書館情報メディア研究科教授。著書に『図書館運動は何を残したか—図書館員の専門性』(勤草書房 2001年)ほか。文部科学省設置の「これからの図書館の在り方検討協力者会議」主査をつとめる。

● 叡智の杜:人づくり

IV 人材育成事業 《事業主体》=宮城県図書館

叡智の杜づくりを担う図書館関係者を対象に行う「叡智の杜チューター研修会」は11月30日、宮城県図書館司書、職員の専門研修として実施しました。内容は本館所蔵貴重書『環海異聞』(15巻首1巻/大槻玄沢 志村弘強編著 写本16冊)の歴史資料としての価値について、東北大学教授・平川新氏を迎え研修を行いました。

◆ 参加者の声

研究者の専門的な講義を受けることができ、『環海異聞』の内容や成立背景などについて深く学ぶことができました。またレファレンスに有効な参考資料も幅広く学ぶことができました。(宮城県図書館司書/田代 恭子)



「環海異聞」

● 叡智の杜:普及啓発用テキストづくり

V 普及啓発事業 《事業主体》=宮城県図書館

「叡智の杜展示会&セミナー」や「特別授業」などで活用する副読本『みやぎの叡智—宮城県図書館貴重書の世界—』を編集、発行しました。

本書はB5版、56ページの体裁で、本館が所蔵する貴重資料のなかから、国指定重要文化財『坤輿万国全図』(版本/17世紀の世界地図)、県指定有形文化財からは江戸時代における博物学の精華『禽譜』(鳥類図鑑)、『魚虫譜』(魚類図鑑)、さらに「仙台領国絵図」など仙台藩に関わる多数の絵図類などについて、およそ80点の図版を収録し、それぞれに解説を付しました。また、本プロジェクトの成果をガイドブック(報告書)として発行しました。

